

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174040	商店街賑わいづくり事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-3	商業の振興			
	施策	2	商店街の再生			
目的	商店街の賑わい創出					
対象	商業者、商店街団体等					
意図	商店街等のイベントや未利用店舗活用への支援により商店街の賑わい創出を図る					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○各種団体補助金・負担金 35,716千円 花巻商工会議所事業補助金 まちの駅連絡協議会会費 岩手県中小企業団体中央会補助金 ○商店街活性化イベント補助金負担金 4,958千円 商店街団体等が実施する賑わいづくりイベント事業への補助 日本ワインフェスティバル花巻大迫実行委員会負担金 ○まちなか創業支援 539千円 中心市街地で事業性のある新規事業を実施する場合の立ち上げ経費補助及び経営指導						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	商店街活性化イベント実施件数	件	計画	12	14	
			実績	12	14	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	商店街活性化イベント来街者数	人	目標	90,000	80,000	
			実績	82,481	86,856	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
商店街活性化イベントの実施主体となる商店街団体における組合員の高齢化や後継者不足といった状況化の中、既存のイベントの継続開催、日本ワインフェスティバル花巻大迫の実施によりイベント来街者は増加となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	郊外大型店出店により市全体の買い物利便性が向上する反面、既存商店街の競争力、商業機能は低下しており、個店の商業力の強化や、中心商店街の賑わいづくりが喫緊の課題である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	商店街の組織力、未利用店舗オーナーの意識改革、経営力向上などにより、事業効果の向上余地はあると考えられる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	商業団体・新規出店者等への補助金は、現行以上に削減するのはインセンティブとして弱過ぎるため削減余地なし。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	中心市街地を対象とした以外には、受益機会は公平であり、商業者や団体等の自己負担も一定程度必要であり、適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
商店街等が自ら行うイベントに対する支援をはじめ、まちなかで創業する事業主への支援や、商業団体等に対する事業補助を行うことにより、商店街の賑わいを創出するとともに、商店街団体の活動支援につながった。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-T	事業名
一般	07	01	02	174040	商店街賑わいづくり事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		43,913	41,213		△ 2,700
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	43,913	41,213		△ 2,700

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標

中心市街地の再活性化

事業開始の背景・経緯

中心市街地の商店街疲弊に歯止めをかけるため、商店街団体が実施するイベントや商工会議所、中小企業団体中央会の経営指導事業等を支援するとともに、新たに創業する事業者への支援を行うことにより、中心市街地の賑わいを創出していく。

事業概要

- 各種団体補助金・負担金 35,716千円
 - 花巻商工会議所事業補助金
 - まちの駅連絡協議会会費
 - 岩手県中小企業団体中央会補助金
- 商店街活性化イベント補助金負担金 4,958千円
 - 商店街団体が実施する賑わいづくりイベント事業への補助
 - 日本ワインフェスティバル花巻大迫実行委員会負担金
- まちなか創業支援 539千円
 - 中心市街地で事業性のある新規事業を実施する場合の立ち上げ経費補助及び経営指導

意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）

担当部署 部名 商工観光部 課名 商工労政課 担当係長 鎌田 博之 内線 389

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

①各種団体補助金・負担金 35,716千円

- (1)花巻商工会議所補助金 32,500千円
市内中小企業者の経営指導や部会活動費、調査広報費、イベント費用などを支援。
- (2)まちの駅連絡協議会会費 60千円
まちの駅いしどりや酒造交流館がまちの駅として認定され、協議会に加入している。同協議会は、まちの駅に取り組んでいる市町村・団体のネットワークであり、まちの駅情報の共同発信、イベント・シンポジウム、特産品紹介・斡旋、研修事業などを実施。
- (3)岩手県中小企業団体中央会補助金 3,156千円
中小企業の組織強化、経営向上のための経営指導などを行う。
花巻市内重点支援組合：17組合、特別支援団体・企業：19組合等

②商店街活性化イベント補助金負担金 4,958千円

- ・商店街団体が実施する賑わいづくりイベント事業補助 4,450千円
商店街振興組合以外のNPO、市民グループ等が事業主体として加わるにより、自らがまちなかを元気にしようとする市民の広がりにより、まちなかの活性化が期待される。

【概要】
補助率：対象経費の1/2
上限額：500千円（2イベント以上の場合は上限1,000千円、1実行委員会あたりのイベント数に限らず上限1,000千円）
事業主体 商店街振興組合、NPO、市民グループ等、中心市街地内でイベントを行う団

- ・30年度日本ワインフェスティバル花巻大迫実行委員会負担金 508千円
H30.5.26（土）・27（日） 大迫交流活性化センター周辺にて開催
事前周知用ポスター・チラシの作成

③まちなか創業支援事業 539千円

- ・地域イノベーション戦略事業の枠組みの中での支援。事業計画前からの支援+伴奏支援。
- ・事業性のある（金融機関の融資に耐えうる事業性）事業者へ、立上げ経費支援。
- ・補助対象は、改装費、広告宣伝費。 ※賃料は対象外。
- ・対象業種は岩手県信用保証協会保証対象業種を基本に追加が必要と認められる業種を追加。
- ・補助金額は上限500千円（対象経費：上限1,000千円の1/2）
- ・事業性の有無を担保は、「地域イノベーション」内で検証。
- ・積算
 - 謝礼金 39千円
 - 補助金 500千円

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174050	商店街利便性向上事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-3	商業の振興			
	施策	2	商店街の再生			
目的	商店街の来街者の利便性及び安全性の向上					
対象	来街者、商店街団体等					
意図	利便施設を開設するとともに商店街共同施設の補修等の支援を行い、多くの人に商店街を利用してもらう					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○市民ふれあい広場運営 1,560千円 中心市街地での買い物客が休憩等に利用する利便施設の運営 ○公共駐車場確保対策 1,873千円 大迫地区内の中心商店街来街者用駐車場を確保						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	市民ふれあい広場設置数	箇所	計画	3	3	
			実績	3	3	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	市街地における一日あたりの歩行者数【商工会議所】	人	目標	9,000	6,000	
			実績	5,008	6,249	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
当該事業及び他の商店街事業との連携により、来街者の増加につながっている。加えて、マルカンビル大食堂の再開 (17/2/20) が、来街者の増加に寄与している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共駐車場確保対策は未利用市有地の活用などを検討しなければならない。
	<input type="radio"/> 妥当である	多くの商店街で施設の老朽化が進んでおり、来街者の安全・安心確保の観点からも公共関与は必要と考える。
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	商店街の利便性や安全・安心なまちづくりなど、商店街の取り組み如何でまだまだ向上余地はあると思われるが、商店街そのものの資金や人的な面で余力に乏しい懸念がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	公共駐車場確保対策のあり方を引き続き検討。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	受益機会は公平。 商店街共同施設改修事業は自己負担を要する。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
商店街の来街者の利便性を確保し、中心市街地に憩いの場を提供することにより、多くの人に商店街を利用してもらう意図に効果があった。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	07	01	02	174050	商店街利便性向上事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,542	3,433		891
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,542	3,433		891

※特定財源の内訳

事業期間	<input type="radio"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
部重点施策における目標			
中心市街地の再活性化			
事業開始の背景・経緯			
中心市街地の商店街疲弊に歯止めをかけるため、商店街における駐車場等の利便施設の運営や、商店街が実施する共同施設の改修を補助し、利便性向上を図る。			
事業概要			
<input type="radio"/> 市民ふれあい広場運営 1,560千円 中心市街地での買い物客が休憩等に利用する利便施設の運営 <input type="radio"/> 公共駐車場確保対策 1,873千円 大迫地区内の中心商店街来街者用駐車場を確保			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			

担当部署 部名 商工観光部 課名 商工労政課 担当係長 鎌田 博之 内線 389 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

①公共駐車場確保対策事業 1,873千円

大迫地区内の中心商店街来街者用の駐車場を確保する。

- ・ 需用費 2千円
- ・ 委託料 359千円
- ・ 土地借上料 1,512千円

	箇所名	契約者氏名	区画数 a	1区画の 月額単価b	賃借料 a*b*12月
1	仲町	小川 富士	20	3,000	720,000
2	上町	黒沼 啓三	20	2,000	480,000
3	川原町	宗教法人到岸寺	13	2,000	312,000
			53		1,512,000

②商店街共同施設補修事業補助金 0千円（実績なし）

商店街の共同施設の補修経費に対して補助する。

補助率等：補修経費の1/2（上限なし） 1,000千円×1/2×3件=1,500千円

対象施設：駐車場、園地、緑地、公衆便所、広告灯、街路灯、アーチ、アーケード

③市民ふれあい広場運営事業 1,560千円

商店街の利便施設として運営。

- ・ 一日市商店街（一日市商店街振興組合） 774千円
- ・ 大迫町商店街（おおはさま共通商品券協同組合） 279千円
- ・ 東和町商店街（東和町土澤商店街商店会連絡会） 507千円

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174060	商店街景観形成事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-3	商業の振興			
	施策	2	商店街の再生			
目的	地域の特色や歴史、先人を活かした商店街を形成する					
対象	商店街、商店街団体等					
意図	魅力ある商店街の形成により、来街者が増加し、商店街に賑わいが創出される					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
<p>○中心商店街顔づくり交付金 6,000千円 大迫、石鳥谷、東それぞれの中心商店街の顔づくりに取り組む商店街等への支援。 【大迫地域】 テーマ：「宿場ロマンのまち おおはさま」 【石鳥谷地域】 テーマ：「南部杜氏の里に全員集合！」 【東和地域】 テーマ：「アートのまち365」</p> <p>○賢治の広場運営 6,356千円 中心市街地活性化と賢治の世界に触れあう市民交流の場である賢治の広場の運営 ・花巻の歴史関連情報の提供、案内業務 ・施設の管理及び清掃 ・観光客を誘客するためのイベントの企画、運営、商店街団体が行うイベント支援</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	顔づくり交付金交付団体数	団体	計画	4	3	
			実績	4	3	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	市街地における一日あたりの歩行者数【商工会議所】	人	目標	9,000	6,000	
			実績	5,008	6,249	
②	賢治の広場入館者数	人	目標	15,000	15,000	
			実績	15,369	15,736	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
地域の特色を活かした顔づくり事業として、地域に定着したイベントとなり来街者の増加につながっている。 加えて、マルカンビル大食堂の再開（17/2/20）が、来街者の増加に寄与している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	商店街地元住民の意思が最重要であり地元主体で実施することが基本であるが、顔となるべき中心商店街の活性化、景観・都市機能の保持など行政の役割も大きく、住民と行政双方が協調し進めるべき事業
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	「顔」の意味・方向性について、地元商店街等と行政が完全に同じ方向を向いているとは言い難い。なお継続的な議論を要する。賢治の広場は、民活により企画展示内容や歴史・先人情報発信を手厚く行うことで向上を目指す。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	現状では交付金縮小がそのままイベント縮小（廃止）に繋がる。将来にわたり残していくべき「顔」と、顔づくりイベントのあり方を合わせて議論する必要がある。賢治の広場は会館時間を短縮し、行政負担は最小限である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	政策意図として特に4地域の中心商店街に限定した交付金である。賢治の広場は誰でも利用することができ、公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
中心市街地の賑わいづくりのため3地域において地域の特色を活かした顔づくり事業を実施し、商店街の一体感醸成と誘客に一定の成果が見られた。 賢治の広場は、管理委託先の花巻市広告美術協会による定期的な企画展の開催により入館者が増加しており、企画展などのファンが増え、定期的に訪れる来館者も増えている。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-T	事業名
一般	07	01	02	174060	商店街景観形成事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		16,168	12,356		△ 3,812
財 源 内 訳	国・県				
	地方債	4,000	4,000		
	その他				
	一般財源	12,168	8,356		△ 3,812

※特定財源の内訳	
過疎対策事業債	4,000千円（大迫・東和地域 顔づくり交付金）

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
部重点施策における目標			
中心市街地の再活性化			
事業開始の背景・経緯			
中心市街地の商店街疲弊に歯止めをかけるため、商店街団体が実施するイベントや商工会議所、中小企業団体中央会の経営指導事業等を支援するとともに、新たに創業する事業者への支援を行うことにより、中心市街地の賑わいを創出していく。			
事業概要			
○中心商店街顔づくり交付金 6,000千円 大迫、石鳥谷、東和それぞれの中心商店街の顔づくりに取り組む商店街等への支援。 【大迫地域】 テーマ：「宿場ロマンのまち おおはさま」 【石鳥谷地域】 テーマ：「南部杜氏の里に全員集合！」 【東和地域】 テーマ：「アートのまち365」			
○賢治の広場運営 6,356千円 中心市街地活性化と賢治の世界に触れあう市民交流の場である賢治の広場の運営 ・花巻の歴史関連情報の提供、案内業務 ・施設の管理及び清掃 ・観光客を誘客するためのイベントの企画、運営、商店街団体が行うイベント支援			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
大迫、石鳥谷、東和の3地域から継続の要望がある。			

担当部署 部名 商工観光部 課名 商工労政課 担当係長 鎌田 博之 内線 389 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】	
①中心商店街顔づくり交付金 6,000千円	
【大迫地域】宿場浪漫のまち おおはさま 2,000千円	
○実施主体	大迫地域中心市街地顔づくり委員会
○目指す姿	宿場浪漫のまちをテーマとし、来訪者に昔の宿場町の面影を感じてもらえるような和風レトロのまち並みや歴史あるさまざまなイベント等を活用し、来訪者と商店街が一体となった明るい商店街を目指します。
○内 容	(1) 歴史ある町並み保存活用 (2) まつりと賑わいづくり (3) おもてなしの商店街づくり (4) 商店街の整備
【石鳥谷地域】南部杜氏の里 2,000千円	
○実施主体	中央通り商店街振興会
○目指す姿	酒蔵交流館を拠点として、住民に酒蔵の雰囲気体験できるようにすることで南部杜氏の里であることを身近なもの印象付け、地域の伝統を継承する一方市内高校生の意見を取り入れ、新しい取り組みも行うことで老若男女を問わず楽しめる賑わいのあるまちを目指す。
○内 容	(1) 酒蔵まつり、酒蔵映画祭の実施 (2) 青雲チャレンジ（花北青雲高校チャレンジショップ）実施 (3) イルミネーション装飾事業の実施
【東和地域】アートのまち365 2,000千円	
○実施主体	土沢商店街商店会連絡会（街かど美術館実行委員会、土澤まちづくり会社）
○目指す姿	街かど美術館の開催などによって広まった「土澤＝アートのまち」という特徴をさらに広め、イベント期間中だけでなく、一年365日アートの世界を感じるような商店街を目指します。
○内 容	(1) アートのまち365評価事業 (2) まちテクギャラリー（展示会）の継続 (3) アートのまち情報発信事業 (4) アートのまちオリジナル土産普及事業 (5) アートのまちベンチ設置事業 (6) アートのまち標識等リニューアル事業
②賢治の広場運営事業 6,356千円	
場所：花巻市上町 岩田ビル1階	
《11. 需用費》 810千円	
《12. 役務費》 31千円	
《13. 委託費》 3,499千円	
《14. 賃借料》 2,016千円	

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	07	01	02	174190	宿場町おおはさま400年記念事業	
総合計画	分野	地域づくり				
	政策	1-3	商業の振興			
	施策	2	商店街の再生			
目的	歴史を活用し、まちなかへ誘導する取り組みを支援する					
対象	住民、商業者、商店街団体等					
意図	住民や観光客が多数訪れる商店街づくりを推進する					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○宿場町おおはさま400年記念事業の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日本ワインフェスティバル花巻大迫（6/3・4開催） ・記念式典、記念講演（7/30開催） ・大名行列（7/30開催） ・大迫あんどん山車と弘前ねぶた共演（8/14開催） ・特別番組制作（11/5放映） 						
市民参画の有無 【 有 】						
市民協働の形態		共催	○ 実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	○ 補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	各種イベントの開催	回	計画		3	
			実績		3	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	イベント住民参加者数	人	目標		1,000	
			実績		1,200	
②	イベント観光客入込数	人	目標		20,000	
			実績		25,100	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	○	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本ワインフェスティバル花巻大迫には町内のワイナリーや飲食店等が参加し、2日間で約3,700名の来場者で大いに賑わった。 ・大名行列及び記念式典には町内小中高生と地域住民が参加し、先人が築いてきた歴史と歩みを振り返るイベントとなった。 ・大迫あんどん山車と弘前ねぶた共演では、ねぶた出演の効果で例年以上の観客となり、大迫あんどんまつりのPRにもなった。 	
目的妥当性	公共関与の妥当性 <input type="radio"/> 妥当である <input type="radio"/> 見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない 「宿場町おおはさま400年記念事業実行委員会」が主体となるが、まちなかの活性化を支援するため、住民と行政が協調して行う事業
有効性	成果の向上余地 <input type="radio"/> 向上余地がある <input type="radio"/> 向上余地がない 大迫地域住民等が400年の歴史を振り返るとともに、イベント等を開催し、まちぐるみの取り組みとなるよう働きかける。それにより、イベントの充実と地域活性化・観光客の増加が見込まれる
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="radio"/> 事業費の削減余地がある <input type="radio"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない 期間限定の事業であるも、イベント等の内容を精査し、コスト削減等工夫している
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="radio"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である 実行委員会の構成団体は、過疎化等による人材不足、または経済的な体力が衰えている団体もあるため、現段階では適正と判断される
総合評価 …上記評価結果の総括	
古い歴史と文化に育まれた大迫の400年の節目を盛大に祝うため、様々な記念事業を開催したことにより、地域住民参加型によるまちづくりと観光客の入込が達成された。	

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 大迫総合支所 課名 地域振興課 担当係長 吉田幸弘 内線 9-20-165

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	174190	宿場町おおはさま400年記念事業

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			29,585		29,585
財 源 内 訳	国・県		6,764		6,764
	地方債		21,200		21,200
	その他				
	一般財源		1,621		1,621

※特定財源の内訳	
地域経営推進費	5,000千円
過疎対策事業債	23,300千円

事業期間	単年度繰返	○	期間限定	[平成 29 年度 ~ 平成 29 年度]
------	-------	---	------	-----------------------

部重点施策における目標
商店街活性化事業

事業開始の背景・経緯
商店街の賑わいを創出するため「宿場町おおはさま400年記念事業実行委員会」を設立し、記念イベント開催等に向けた計画を策定した。

事業概要
○宿場町おおはさま400年記念事業の開催

- ・日本ワインフェスティバル花巻大迫 (6/3・4開催)
- ・記念式典・記念講演 (7/30開催)
- ・大名行列 (7/30開催)
- ・大迫あんどん山車と弘前ねぶた共演 (8/14開催)
- ・特別番組制作 (11/5放映)

意見・要望等の状況 (市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

①宿場町おおはさま400年記念事業実行委員会負担金 28,042千円

【事業計画】

- ①日本ワインフェスティバル花巻大迫
 - ②記念式典・記念講演・大名行列
 - ③大迫あんどん山車と弘前ねぶた共演
 - ④特別番組の制作
 - ⑤既存事業等への400年冠事業 (ワインまつり・芸術祭等)
- } 実施主体：実行委員会

1 収入の部

項目	決算額	内訳
売上金	4,011 千円	日本ワインフェスティバルチケット売上金
負担金	28,712 千円	市負担金 28,042千円、実行委員会構成団体負担金 670千円
補助金	293 千円	文化芸術振興費補助金
協賛金	1,465 千円	協賛金
諸収入	992 千円	シャトルバス利用料、出店料、預金利息等
合計	35,473 千円	

2 支出の部

項目	決算額	内訳
日本ワインフェスティバル花巻大迫	20,938 千円	6月3日・4日 日本のワイナリーを招聘してのフェスティバル
記念式典・記念講演	2,343 千円	7月30日 清水寺 貫主 森清範による揮毫及び記念講演
大名行列	3,976 千円	7月30日 地域住民約200名による大名行列
あんどん山車交流	4,382 千円	8月14日 大迫あんどん祭りでの青森県弘前ねぶたとの共演
特別番組制作	3,834 千円	11月5日放映 60分特別番組の制作
合計	35,473 千円	

②時間外勤務手当 969千円

③臨時補助員賃金 574千円